3ZC-9

Webディレクター育成のための PBL向けマルチメディアケース教材の評価と検討

杉澤　愛美[†]　安田　光孝[‡]　斎藤　一[‡]　隼田　尚彦[‡]　向田　茂[‡]
[†]北海道情報大学大学院 経営情報学研究科
[‡]北海道情報大学 情報メディア学部

1. はじめに

北海道情報大学情報メディア学部では,経済産業省の事業である「産学人材育成パートナーシップ事業」において,デジタルコンテンツ産業におけるプロデューサー志向の人材育成に取り組んでいる.主な教育手法として,産学連携によるプロジェクト型学習（以下PBL: Project Based Learning）が用いられる.PBLにおいて学生が実際の案件に取り組むことで,ディレクターやプロデューサーに必要な「問題設定・解決力,コミュニケーション力,チームワーク力,リーダーシップ,創造性など[1]」を身につけることができる.

本稿では,本学におけるPBLの取り組みと,開発したマルチメディアケース教材の評価を行った実証講義について述べる.

2. PBLの取り組み

PBLとは,「達成すべき課題に対して学生が主体となって問題解決のプロジェクトを実施する形式の授業」である[1]. 本学では実際に顧客が存在する「リアル型PBL」と,企業でのクリエイティブ事例を疑似体験する「ケースメソッド型PBL」の2種類がある.ケースメソッド型PBLでは,産業界で実際にあったクリエイティブ事例を取材してケース教材を作成し,学生に擬似プロジェクトとしてあたらせる.これにより,ひとつの案件を多数の学生にプロジェクトとして与えることができる.この背景には,本学では学生に提供できるプロジェクト案件が学生数に対し少ないため,全学生に対し,PBLを提供出来ないことがある.

しかし,ここで与えられるケースは文章のみの場合が多く,本学で平成21年8月に安田が行った第一回実証講義の学部生向けのアンケートでは「難易度が高い」「文章読解に時間がかかる」という答えが多かった.そこで,補助教材として,映像やアニメを用いて,よりリアリティをもって学習できる「マルチメディアケース教材」の開発を行うこととなった[2].

3. 教材事例：かもい岳スキー場

今回,教材内で使われたケースのプロジェクトは,「かもい岳スキー場Webサイトリニューアル」である[3].北海道歌志内市にあるかもい岳スキー場は 1972 年に市によって開設されたスキー場である.競技スキーヤーの間では有名なスキー場であるが,今回のプロジェクトでは一般利用客の増加が目的である.今回の教材はクライアントである同スキー場の斎藤博氏・岡島京一氏を取材し,安田がケース教材としてまとめたものを用いた.

図１　かもい岳スキー場

4. マルチメディアケース教材の開発

「マルチメディアケース：かもい岳スキー場」として教材用Webサイトを作成した.

この教材のメインとなるのは「ケース説明」である.この項目では元となる文章のケース教材の内容をそのまま,映像,写真,イラスト,音声などのメディアを通して説明していく形とした.使用するメディアは伝えたい内容ごとに選定を行った.かもい岳スキー場の再生に対する基本方針やサイトのリニューアルにおける要望・思いなどを伝える部分については特にリアリティを表現したいため,実際に斎藤氏・岡島氏に話していただきそれを動画として収録・編集し,素材として組み込んだ.その他の部分では,スキー場から提供された写真素材を用い,足りない部分は実際に現地に行って撮影した.写真だけではイメージしにくいもの,

Development of case materials with multimedia to cultivate web directors
† Manami Sugisawa,　Graduate School of Hokkaido Information University
‡ Mitsutaka Yasuda,Hajime Saito,Naohiko Hayata,Shigeru Mukaida, Faculty of Information Media,Hokkaido Information University

Copyright ©2011 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.

こちらの意図が伝わりにくい部分に関してはイラストやアニメーションを利用し,学部生でも理解しやすいよう配慮した（図2）

図2：作成したケース説明の一例

5. 実証講義

制作したマルチメディアケース教材を実際の講義で使用した. 講義は本学で平成22年後期に安田が行った『WEB制作Ⅱ・演習』で,受講者数38人,対象学年は2年生である. この講義は,『かもい岳スキー場Webサイトリニューアルプロジェクト』のケースを元に,問題解決の手段をWEB制作を通し提案するという内容になっている. 問題解決能力とそれを第3者(クライアント)に提案する力を身につけるのがこの講義の狙いである. ここでケース文章と共にマルチメディアケース教材の使用を促した. また,クライアントへのWEBの提案が終わった段階でマルチメディアケース教材に関するアンケートを行った.

「マルチメディアケース教材はケースの理解を深めるために必要だと思いますか？」という質問に関しては,大変そう思う,そう思うと答えた学生が58%と半数以上という結果になった(図3). しかし「文章だけの教材と比べるとマルチメディア教材によってかもい岳スキー場の具体的な状況把握は深まったか」という質問では,どちらともいえないと答えた学生が37%,深まらなかった,全く深まらなかったと答えた学生も3割いるという結果になった. また,「マルチメディアケース教材は使いやすかったか」という質問に関しては,どちらともいえないという意見が多かった.

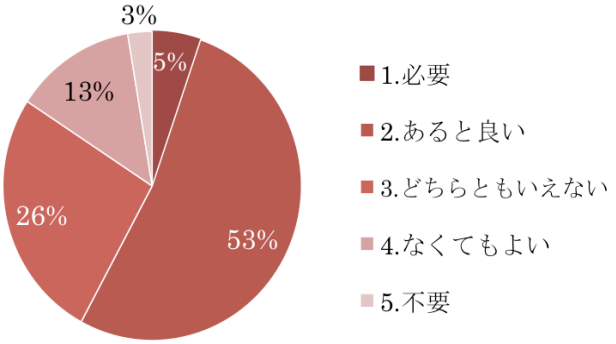

図3: 質問「マルチメディアケース教材はケースの理解を深めるために必要だと思いますか？」への回答

この結果から,必要性や利便性は感じている部分はあるものの,現状のマルチメディアケース教材では,文章のみの教材と情報の内容そのものが変わらないため理解が深まってはいない現状があることが分かった. よって,マルチメディアを使用した教材ならではの情報を提供する教材にしていくことが改善点としてあげられる. このアンケートでは,文章のみの教材と比べてマルチメディアケース教材のコンテンツのどの部分が役立ったのかを調査することができなかったため,追実験を行う必要がある.

6. マルチメディアケース教材の追実験

これまでの実証講義で得られることができなかったデータを収集するため追実験を行う. 追実験では,マルチメディアケース教材で役立ったと感じられる部分やユーザーインターフェースの改良点などを調査する予定である. 追実験は,実証講義を既にうけた学生と新規学生へのヒアリングを通して行う.

7. まとめ

本稿では,Webディレクターを育成するマルチメディアケース教材の実証講義について報告を行った. 今後の活動としては,追実験を通して得た意見を元に教材の改善を行う.

謝辞

本研究は,平成20-22年度経済産業省産学人材育成パートナーシップ事業（産学人材育成パートナーシップ事業）『デジタルコンテンツ産業におけるトップガン：クリエイター・プロデューサー育成の実践』の一部として行われました.

参考文献

[1] 松田直浩,喜多一："Project Based Learning 型授業のためのプロジェクト目標マネジメント支援システムの提案", http://mycom.alife.cs.is.nagoya-u.ac.jp/2006/proceedings/1-5.pdf, (2007)

[2] 杉澤愛美・安田光孝・斎藤一・隼田尚彦・向田茂, "Webディレクター育成のためのPBL向けマルチメディアケース教材の開発", 第35回教育システム情報学会講演論文集, pp. 433-434, 2010. 08.

[3]かもい岳スキー場WEBサイト：http://kamoidake.jp/

Copyright ©2011 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.